

4 「投票しない」人たち

政治への冷たい見方

これまでみてきたところによると、選挙への関心で「必ず投票する」という人は、既成政党を支持し、持家などの定住市民層で、行政への関心や市役所への接触も強い人の割合が多かった。これに対して、「投票しない」という人は、積極的に支持する政党もなく、年齢は二〇代と三〇代、生活環境についての不満や要求をもちつつも市役所との接触は少なく、寮や民間アパート、それに一戸建借家住まいなどの行政から遠い人たちが多かった。また、「支持政党なし」という人は、やはり年齢が二〇代と三〇代、それも比較的新しい転入者によく、職業では販売サービス従事者・産業労働者・事務職などの被傭者で、寮や民間アパート・間借り・下宿住まいなど、住宅事情の不安定な人に多かった。市役所への接触との関連でみると、すでに述べたように広聴手段の利用率が低い層には、一方で生活環境に「満

足している」人たちがあると同時に、他方で「不満はあるがどれも利用したことはない」という沈黙層も多く、後者が「支持政党なし」という人たちの半数近くを占めていた(図14)。

では、有権者が棄権する理由は何だろうか。表20によると、「政治や政党に希望をもてないから」「政党や候補者のことがよくわからないから」「選挙など、自分たちの生活にあまり関係がないから」などの割合が高い。「余裕がない」は男性の三〇代、「よくわからない」は女性の二〇代、「希望をもてない」は男性の四〇代でそれぞれ多く、男女とも五〇代では「わからない」という人が多い。住居形態でみると、民間アパート居住者の三人に一人は「政治に希望をもてないから」と答え、どの住居住まいの人たちよりも政治に対して冷たい見方をしている。

大企業や条件のよい勤め先など大きな組織に属している人たちは、たとえばインフレのなかでもそれ相当の賃金の上昇があったり、それなりに組織の力で福利



厚生面での利益も得られるが、そうでない人たちは、精いっぱい努力をしても、自分たちの生活にそれだけの安定と見返りはあらわれない。民間アパートに住む多くの人たちの気持ちのなかには、おそらく政治は大きな力と力の関係のなかで決定され、強い組織からはずれた個人の生活については、政治の舞台で親身に話しあわれるようなことはまずない、といったそんな無力感が漂っているのもあろう。

市民全体でみると、いまの社会に対して、一人ひとりの努力がそれなりの成果を生むと思っている人は三割、努力はむだと感じている人は六割にも達している(四十八年十一月、都市研調査)。とくに、「まじめに働いても暮らしがよくならない」と感じている人で「努力はむだ」は七五%で、この人たちの無力感の大きさがうかがわれる。この自分一人の努力が有効な力とはなり得ないという気持ちと、選挙の際に一票を投ずることの無力感とは、そう遠くはなからう。そうした気持ちを伝えるいくつかの例として――

表-20

横浜でおこなわれた選挙の投票率は、58%前後になっています。棄権が約4割いますが、棄権の主な理由は何だと思えますか。次の中から1つだけ選んで下さい。

1. 自分のことに追われ、選挙まで考える余裕がないから 11.8%
2. 選挙など、自分達の生活にあまり関係がないから 13.7%
3. 政党や候補者のことがよくわからないから 20.8%
4. 支持する政党や適当な候補者がいないから 13.0%
5. 政治や政党に希望をもてないから 27.5%
6. きまじめに投票することもないから 3.0%
7. その他(具体的に) 3.1%
8. わからない 6.9%
9. 答えない 0.2%

[49年4月、都市研調査]

無力感と切
実な関心と

神奈川県神奈川郡神奈川町に住むYさんは、かなり古びたアパートの一階に住んでいる。

四〇代前半のYさんと子ども二人暮らしで、奥さんはいない。Yさんは船の関係の仕事をしているせいなのか何度訪ねても留守なので、ドアに「生活環境と住民の気持ち」を主題とした調査票をはさんで置いた。数日後、戸口でばったりあったYさんは、手にした調査票を渡すとさっさとどこかへかけてしまった。未記入の多い調査票であるが、回答欄には「自分たちの要求に答えてくれそうにないから」市政への関心がなく、選挙で棄権するのは「選挙をくり返しても生活はあまり変わらない」し、「いまの議会政治に希望がもてない」からだ、というところに○をつけていた。

また、夫婦と子どもの五人暮らしのIさん宅では、「公営・公団は所得制限があったり、遠かったり入れない。税金は全然自分の暮らしに還元されない。それがいちばん頭にくる」ともらしていた。Iさんは、

市政は暮らしに関係があるから「関心がある」が、選挙での棄権の理由については「金のある人は生活に満足があるから、政治に興味がわかないのではないか。金に困っている人は政治からおいていかれて諦められないか」と語っていた。彼は青森県から東京へでて、それから神奈川県内に移り、横浜では二軒目のアパート住まいである。三〇代後半で、自営のトラック運転手をしている。アパートは二間で家賃を二万円支払っており、収入は一一〜一五万円である。

もう一人、同じ町のSさんは、ひどく古ぼけたアパートの一階に住んでいる。横浜には一五年間も住み続け、市営住宅に何度応募しても落ちるばかりで、もう住居さがしは諦らめている。「税金ばかりとって市は何もしてくれない」という気持ちをもちながらも「地域を住みよくしたいから」市政には「関心がある」と答えている。しかし一方では、環境をよくしていこうという気持ちにはなれないし、自動車の騒音や空気の



悪さは「しようがない」と思っている。「政治は誰がやっても同じだと諦らめているから、棄権する人が多いのだろう」と語っていた。四〇代前半で奥さんと子ども二人の四人暮らし。二間で一三畳、一万七、〇〇〇円の家賃を支払っている。沖繩の出身で「都会の生活はきびしい」と感じている。

選挙に棄権しがちな人、あるいは行政に接触しない人たちは、ややもすれば一まとめにして無関心層と呼ばれることが多いが、このYさんたちの場合を、政治や行政に無関心といい切ることができるかどうか。

5 「環境を守る」人たち

中年以上、持家 生活環境が公害などの原因で悪くなってきた時、地元の人と力をあわせて環境に高い意識 境をよくしていこうという気持ちになる

れるかどうか(表21)。有権者の約八割はそういう気持ち

表-21

このあたりの環境が公害などの原因で悪くなってきた時、あなたは地元の人と力を合わせて環境をよくして行こうという気持ちになれそうですか。それとも、そういう気持ちにはなれませんか。

1. そういう気持ちになれる→SQへ 79.5%
2. そういう気持ちになれない 5.9%
3. 時と場合による 12.8%
4. その他 0.7%
5. わからない・答えない 1.1%

SQ [1と答えた人に] それではあなたの身近に公害などの問題で運動を起こそうという話が出て来た時、あなたはどうしますか。この中にありましたらひとつだけあげて下さい。

1. 自分からすすんで運動を起こす 14.2%
2. 時間的余裕があれば参加する 43.4%
3. あまり拘束がきつくなければ参加する 14.6%
4. 近所の人にさそわれれば参加する 25.1%
5. 運動を起こすことも参加することもしない 1.4%
6. わからない・答えない 1.3%

[48年2月、都市研調査]